

2025年3月期
決算説明資料

株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング

2025年4月30日



(東証グロース：7774)

目次

1. 2025年3月期の業績・トピックス	--- P.2
2. 2026年3月期の業績予想	--- P.12
3. 参考資料	--- P.16

【用語の説明】

ジェイス	患者の皮膚組織を採取し、分離した細胞を培養して製造された自家培養表皮（再生医療等製品）
ジャスミン	患者の皮膚組織を採取し、分離した細胞とメラノサイト(色素細胞)を培養して製造された自家培養表皮（再生医療等製品）
ジャック	患者の軟骨組織を採取し、分離した細胞を培養して製造された自家培養軟骨（再生医療等製品）
OA	変形性関節症
ネピック	患者の角膜輪部組織を採取し、分離した細胞を培養して製造された自家培養角膜上皮（再生医療等製品）
オキュラル	患者の口腔粘膜組織を採取し、分離した細胞を培養して製造された自家培養口腔粘膜上皮（再生医療等製品）
ラボサイト	実験動物を用いた皮膚刺激性試験等の各種試験に代用可能な研究用ヒト培養組織

1. 2025年3月期の業績・トピックス

2025年3月期 決算のポイント

4Q (1-3月) 実績

- ✓ 4Qは、直前四半期に比べ、**ジェイス重症熱傷の症例増加、ジャスミン販売開始、帝人受託収入計上**により、大幅増益

累計実績

- ✓ 主に帝人収入後ろ倒しと助成金減少により営業利益は-238百万円となったが、**今期業績で回復の見込み**
- ✓ 直近業績予想修正に対して、ジャック、ネピック、オキュラルの売上が想定より伸びず、未達で着地（営業利益 -200 → -238）

営業利益推移（四半期）



営業利益増減（前年同期比）



2025年3月期の業績

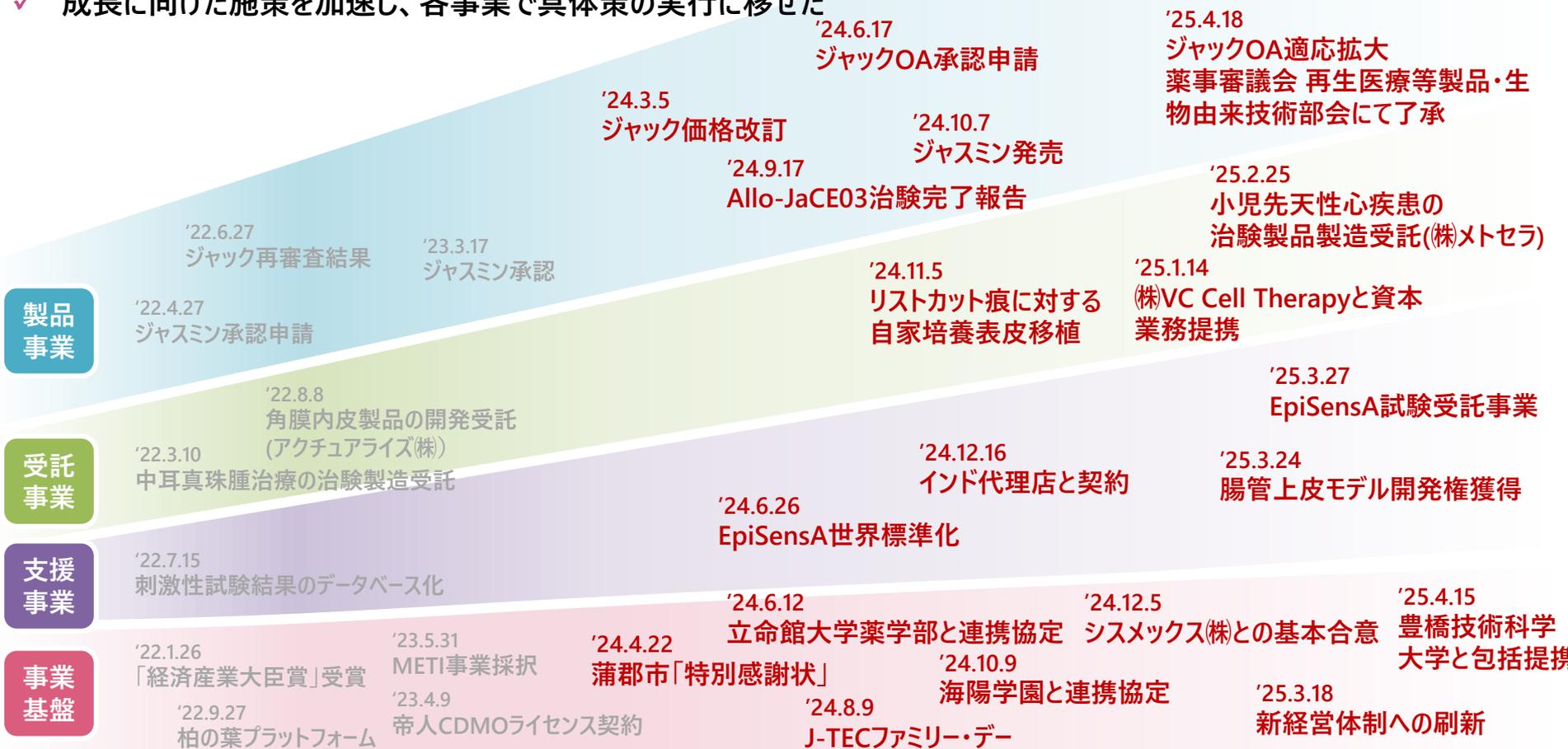
✓ 2025年3月期の売上高は2,455百万円（前期比2.3%減）、営業損益は△238百万円となった

単位：百万円 (百万円未満切捨て表示) (増減率は円単位で計算)	2024年3月期		2025年3月期		
	実績	実績	対前期		通期計画 2025.1.31開示
			増減額	増減率	
売上高合計	2,514	2,455	△58	△2.3%	2,500
再生医療製品事業	1,406	1,493	86	6.2%	1,560
皮膚領域（ジェイス、ジャスミン）	911	985	74	8.1%	950
軟骨領域（ジャック）	321	382	61	19.1%	452
角膜領域（ネピック、オキュラル）	173	125	△48	△28.0%	158
再生医療受託事業	865	713	△151	△17.5%	695
一般顧客受託（親会社以外からの受託）	395	348	△47	△11.8%	-
帝人受託	469	364	△104	△22.3%	-
研究開発支援事業	242	248	6	2.6%	245
売上総利益	1,690	1,511	△179	△10.6%	-
販売費及び一般管理費	1,546	1,749	203	13.2%	-
営業損益	144	△238	△382	-	△200
経常損益	147	△234	△381	-	△202
当期純損益	143	△255	△398	-	△223

* 帝人からのマイルストーン収入 前期累計期間（2024年3月期）：170百万円、当期累計期間（2025年3月期）：100百万円

2025年3月期の振り返り

✓ 成長に向けた施策を加速し、各事業で具体策の実行に移せた



成長施策に関する進捗状況

再生医療 製品事業	皮膚領域	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ジャスミン 2025年3月期で6例の受注を獲得、2026/3期中は50例超の待機患者に治療提供を見込む ✓ Allo-JaCE03*1 2026/3期中の承認申請を目指し、順調に進捗中 ✓ きずときずあとのクリニック®での自家培養表皮移植術の自由診療展開も順調 	
	軟骨領域	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ジャックOA適応拡大 4月18日厚生労働省「薬事審議会 再生医療等製品・生物由来技術部会」において適応症に膝OAを追加する一部変更承認が了承 	Pickup 1
	新規領域	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自家CAR-T細胞*2 名古屋大学で悪性リンパ腫の医師主導治験に加え、急性リンパ性白血病に対する医師主導治験が開始された 	
再生医療受託事業		<ul style="list-style-type: none"> ✓ (株)VC Cell Therapyとの資本業務提携契約に基づき、業務受託を開始、開発が順調に進捗 ✓ (株)メトセラと、治験製品製造に関する受託契約を締結 ✓ 見込み顧客との契約交渉も複数進捗中 	Pickup 2
研究開発支援事業		<ul style="list-style-type: none"> ✓ EpiSensAの拡販体制を構築するため、帝人構造解析センターと協業で試験受託事業を開始 →欧州を中心に、複数社への販売を開始 ✓ ヒトiPS細胞とオルガノイドの技術を用いた研究用腸管上皮モデルの開発権を取得 →新製品として、創薬市場・海外展開を加速（2027/3期1Q上市予定） 	Pickup 3
基盤構築		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 成長を加速するための経営体制に刷新 ✓ シスメックス(株)と品質管理試験の合理化に向けた共同開発を開始 	Pickup 4

*1 開発中の他家（同種）培養表皮で、わが国で初となる他人の皮膚組織を原材料としたオフザセルフ製品

*2 名古屋大学・信州大学と特許ライセンス契約を締結した、CD19陽性の急性リンパ性白血病の治療を目的とした、低コストで製造できる自家CAR-T細胞由来治療薬開発

開発パイプラインの上市目標

✓ 開発は着実に前進している

➡ : 進展



自家培養軟骨「ジャック」：厚労省の部会にてOA適応追加を了承



- ✓ 2025年4月18日に開催された、薬事審議会 再生医療等製品・生物由来技術部会にておいて、**適応症に変形性膝関節症を追加する一部変更承認が了承**され、大きく前進。**近々、正式承認される見通し**（正式承認されたら詳細リリース予定）
- ✓ 保険収載時期については、**不確実性が高く予測が難しいが、2026/3月期3Q中に保険収載される前提で販売準備**を計画

ジャック適応拡大の概要

- ✓ 変形性膝関節症は、膝関節の自覚症状を有する患者数で約1,000万人存在し、ジャックが目指す「真の適応」
- ✓ ジャックが適応となる変形性膝関節症は、**運動療法などの保存療法では症状が改善せず、かつ2cm²以上の軟骨の欠損を有する患者**を対象と想定（軟骨が完全にすり減った重症の患者は対象外と想定）
- ✓ 既存の適応（年間200例弱）に比べ、**将来的には年間1,000例を超えるポテンシャルと想定しており**、売上50億円達成の成長ドライバーとして期待
- ✓ 治験の結果、**ヒアルロン酸ナトリウム製剤投与群に対して統計的に有意な臨床症状の改善**を証明
- ✓ また自家培養軟骨の移植にて変形性膝関節症による軟骨欠損部の硝子軟骨様組織による修復を確認

Pickup 2

再生医療受託事業の新規領域への拡張

- ✓ 受託事業で培った強みを活かし、**新規技術領域への拡張を加速することで国内外の顧客獲得拡大を図る**

当社の
強み顧客のニーズをとらえ、上市を見据えた
包括的な支援の実現

- ✓ 製品づくり込みの経験
- ✓ 治験製品製造ノウハウ
- ✓ 治験実施にあたる医師との連携
- ✓ 製造販売承認に向けた低コスト化提案
- ✓ 市販後体制提案

新領域
への
拡張
 CELL THERAPY '25/1～資本業務提携

- ✓ **iPS細胞**を用いた網膜変性に対する再生医療製品の実用化に向けて、共に開発

 METCELA '25/2～治験製造受託

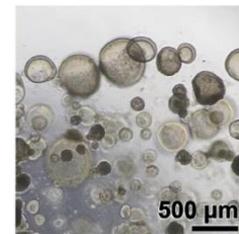
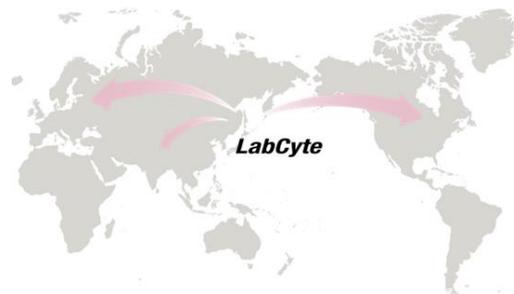
- ✓ 機能的単心室症に対する再生医療製品の治験製品製造受託→**循環器領域への拡張**

 ActualEyes '22/8～開発受託

- ✓ 水疱性角膜症に対する再生医療製品の治験製造受託
→国内第Ⅱ相臨床試験の移植を実施

ヒトiPS細胞とオルガノイド技術を用いた研究用腸管上皮モデル開発権取得

- ✓ 動物愛護の観点から**動物実験禁止の潮流**が世界的に加速している
- ✓ この要請に応えるべく、ラボサイトシリーズの**新製品**として、**ヒトiPS細胞とオルガノイド技術を用いた研究用腸管上皮モデル**の開発権をタカラバイオ社から譲受
- ✓ 動物実験代替法として、**マーケットの大きい創薬市場・海外市場への展開**を目指す
(2027/3月期1Qでの上市目標)
- ✓ 更に、iPS細胞、オルガノイドの高度な技術を知見を獲得し、**組織構造を持つ製品ラインナップ**を拡充する



ヒトiPS細胞由来腸管オルガノイド

特性

- ✓ 最適な条件でヒトiPS細胞を分化誘導することで、**実際のヒトの小腸に近い機能を有する腸管上皮細胞の再現が可能**
- ✓ 腸管オルガノイドの安定培養により**長期的に質の良い細胞の維持が可能となり、製造効率の高い、高品質で安定的な製品製造と短納期を実現**

Pickup 4

成長を加速する新経営体制へ刷新

✓ 新たな社長のリーダーシップのもと、当社の専門力を結集するチーム経営を推進し、成長を加速させる

*6/19の定時株主総会・取締役会の決議を経て発効
社外取締役・監査役は記載省略
研究開発支援事業担当役員は別途決定予定

株主総会後の社内役員体制案



大須賀 俊裕
取締役 専務執行役員

New



山田 一登
代表取締役 社長執行役員

New



若林 晃伸
取締役（戦略企画担当）

藤田 美穂
（生産部門）



林 成晃
（開発部門）



矢崎 忠恵
（製品事業 営業）



榊原 規生
（受託事業）



村井 博昭
（IT・基盤整備）



相羽 教代
（薬事・信頼性保証）



2. 2026年3月期の業績予想

2026年3月期の業績予想

- ✓ 今回の見通しについては、**ジャックOAの保険収載時期の見通しが困難かつ影響が大きい**ため、**レンジ形式を採用**
→ジャックOAの保険収載が今期中に完了するケースを上限値、今期中に完了しないケースを下限值として設定
- ✓ いずれのケースでも、**各事業の販売拡大により、営業黒字化**を見込む

単位：百万円 (百万円未満切捨て表示) (増減率は円単位で計算)	2025年3月期	2026年3月期		
	通期実績	業績予想 2025年4月30日開示	対前期	
			増減額	増減率
売上高合計	2,455	2,900~3,100	444~644	18.1~26.2%
再生医療製品事業	1,493	1,770~1,970	280~480	18.8~32.2%
皮膚領域（ジェイス、ジャスミン）	985	1,130	147	15.0%
軟骨領域（ジャック）	382	400~ 600	17~217	4.6~57.0%
角膜領域（ネピック、オキュラル）	125	240	116	92.7%
再生医療受託事業	713	810	93	13.1%
一般顧客受託（親会社以外からの受託）	348	430	80	23.0%
帝人受託	364	380	13	3.6%
研究開発支援事業	248	320	71	28.9%
営業利益	△238	100~200	338~438	-
経常利益	△234	110~210	344~444	-
当期純利益	△255	100~190	355~445	-

* 帝人からのマイルストーン収入 前々期累計期間（2024年3月期）：170百万円、前期累計期間（2025年3月期）：100百万円

2026年3月期の主要施策

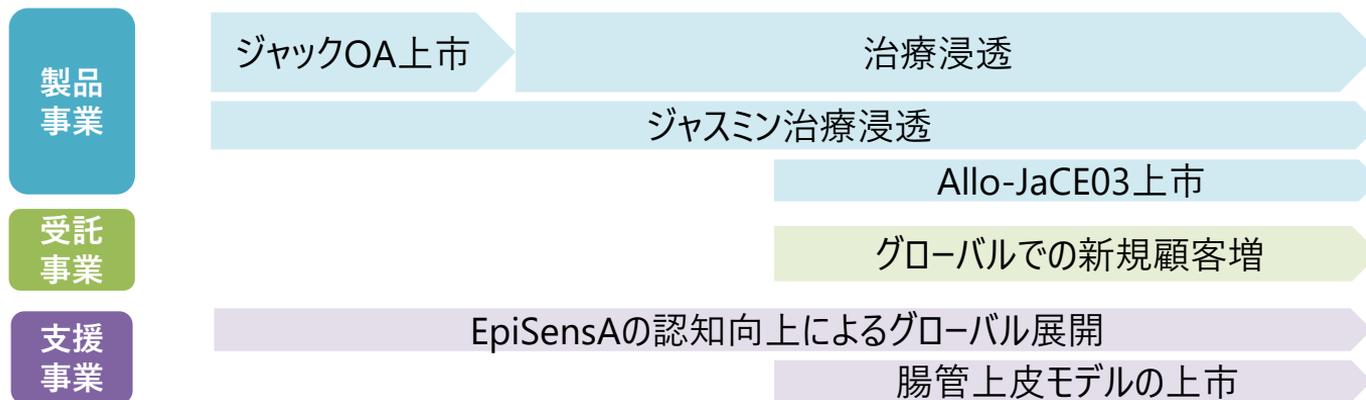
✓ ジャックOA、ジャスミンの拡販を重点施策として注力する

再生医療 製品事業	皮膚領域	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ジャスミン：待機患者50症例超の着実な治療提供 ✓ Allo-JaCE03：今期中承認申請を目指した開発と、同種（他家）細胞新領域の販売体制準備
	軟骨領域	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ジャック：OA適応拡大に向け、リソースを集中して医師・患者啓蒙に注力
	新規領域	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自家CAR-T細胞 名古屋大学での悪性リンパ腫・急性リンパ性白血病に対する医師主導治験の着実な実行
再生医療受託事業		<ul style="list-style-type: none"> ✓ (株)VC Cell Therapy、(株)メトセラ、アクチュアライズ(株)など、既存顧客への価値提供加速 ✓ 当社の開発ノウハウを最大限活かした、国内外の新規受託案件の取り込み
研究開発支援事業		<ul style="list-style-type: none"> ✓ EpiSensAのグローバル拡販体制構築 ✓ 腸管上皮モデルの新製品開発（2027/3月期での上市目標）
基盤構築		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 製造・品質管理工程の機械化・自動化（シスメックス(株)との提携） ✓ 地域連携強化による人材育成・産業活性化（豊橋技術科学大学との提携）

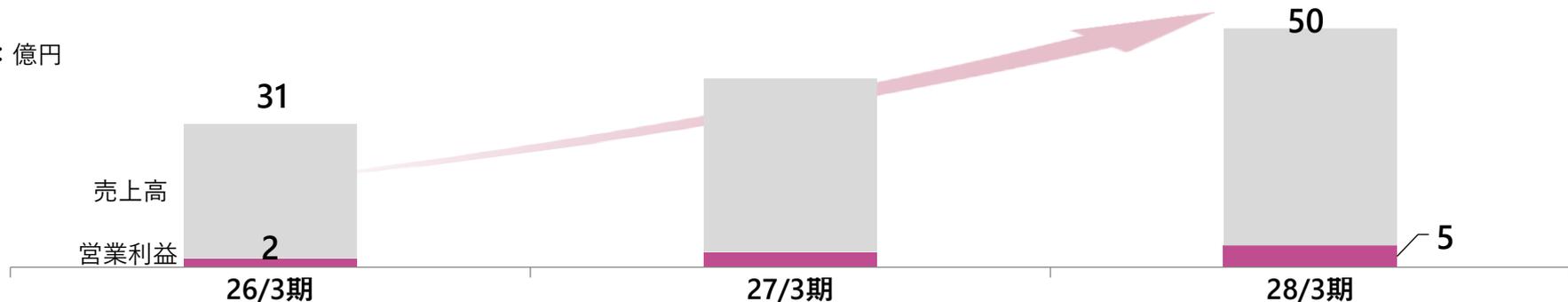
飛躍的成長に向けて

- ✓ 中期経営計画で2026年3月期達成を目指した売上高50億円（営業利益10%）は、再生医療製品事業のパイプライン売上拡大を主な成長ドライバーとして、2028/3期に達成する計画に修正
- ✓ 各成長施策を確実に実績に繋げていき、四半期ごとにIR説明資料にて進捗をお示しする

*なお、事業計画及び成長可能性に関する事項は、2025年6月末までに開示予定



単位：億円



3. 参考資料

適時開示

2025年3月期のトピックス一覧

※主なものを抜粋

掲載日	内容
2024年4月12日	第23回日本再生医療学会総会 優秀演題賞2演題受賞 ～間葉系幹細胞に関する当社基礎研究の取り組み～
4月22日	蒲郡市制施行70周年記念式典にて特別感謝状を受贈 ～「再生医療のまち蒲郡」への貢献～
6月11日	適時開示 2024年度「新あいち創造研究開発補助金」採択のお知らせ
6月17日	適時開示 自家培養軟骨ジャック：変形性膝関節症への適応拡大に向けて一部変更承認申請書を提出
6月26日	「ラボサイト エピ・モデル24」を用いた皮膚感作性試験法「EpiSensA」が世界標準化
9月4日	アクチュアライズ(株)「角膜内皮の再生医療」国内第Ⅱ相臨床試験における第一例目の移植を実施
9月17日	適時開示 世界初、長期の室温保管が可能な他家（同種）培養表皮の臨床試験が完了
10月7日	適時開示 色素細胞を含む自家培養表皮「ジャスミン」を発売
11月5日	リストカット痕に対する「培養表皮移植術」を開始
12月5日	シスメックス(株)と再生細胞医療における製造機能の高度化に向けた基本合意
12月16日	適時開示 人事異動に関するお知らせ
12月16日	シバン・バイオテックと研究用ヒト培養組織の販売に関する代理店契約を締結
2025年1月14日	(株)VC Cell Therapy とiPS細胞による再生医療製品の実用化に向けた資本業務提携
1月30日	再生医療市民講座「再生医療がもたらす新たな社会価値～蒲郡市でHAPPYに生きる～」開催
2月25日	小児先天性心疾患を対象とした再生医療製品の治験製品製造を受託（株）メトセラとの契約）
3月18日	適時開示 代表取締役の異動および人事異動に関するお知らせ
3月24日	ヒトiPS細胞とオルガノイドの技術を用いた研究用腸管上皮モデルの開発権取得
3月27日	動物実験代替製品を用いた皮膚感作性試験に関する受託事業を開始 「EpiSensA」外部試験受託機関と連携

当社の再生医療等製品 一覧

(2025年4月現在)

1

国内第1号の再生医療等製品

自家培養表皮



製造販売承認
2007年10月
保険収載
2009年1月

2

日本発の技術を製品化した
国内第2号の再生医療等製品

自家培養軟骨



製造販売承認
2012年7月
保険収載
2013年4月

3

眼科領域で国内初の
再生医療等製品

自家培養角膜上皮



製造販売承認
2020年3月
保険収載
2020年6月

4

眼科領域で2つ目の
再生医療等製品

自家培養口腔粘膜上皮



製造販売承認
2021年6月
保険収載
2021年12月

5

患者さんが多い白斑治療用
再生医療等製品

メラノサイト含有
自家培養表皮



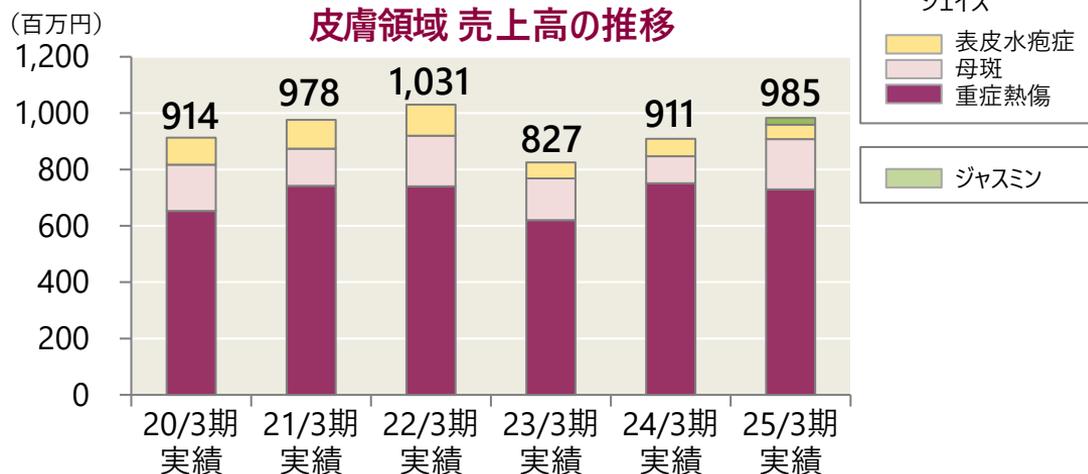
製造販売承認
2023年3月
保険収載
2024年10月

製品

製品
外観承認
時期

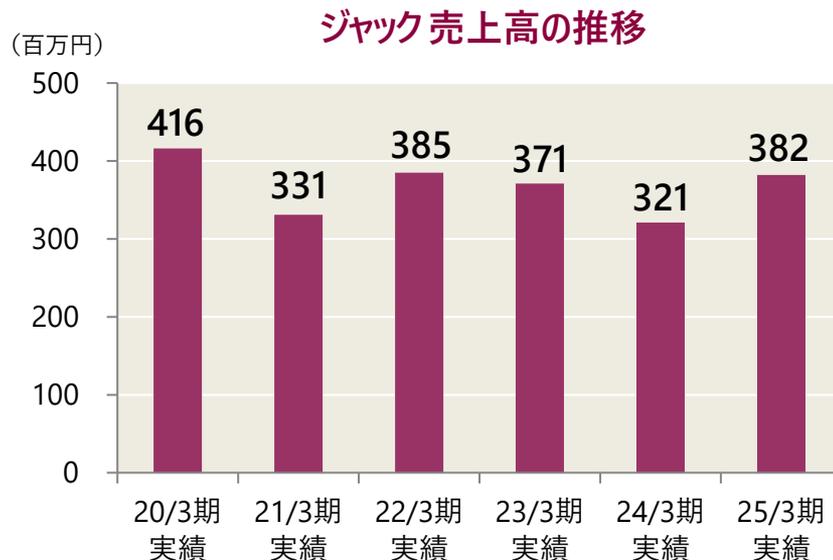
再生医療製品事業：皮膚領域（ジェイス・ジャスミン）

- ✓ 2025年3月期の売上は、985百万円（前期比8.1%増）。
- ✓ <皮膚領域：自家培養表皮ジェイス> 熱傷では、当該疾患の標準的な治療の一つとして広く認知、受容される営業活動を重ねた結果、第4四半期において不調を挽回し、ほぼ前事業年度並の着地となった。今後もより多くの患者の救命に寄与出来るよう、営業活動強化を図る。先天性巨大色素性母斑では、ジェイス移植時に新たな併用療法を進める施設での受注が伸びた結果、大幅に売上が増加した。今後はこの治療法の更なる治療成績の向上を見極めたうえで、普及に向けた施策を推進する。
- ✓ <皮膚領域：メラノサイト含有自家培養表皮ジャスミン> 2024年10月の保険収載を受け、拠点となる医療機関への採用活動を進め、使用環境の整備に努めた。その結果、1月に初の受注を獲得し、当事業年度内の症例数を6例まで伸ばすことができた。その後も待機患者への治療提供が順調に進んでいる。
- ✓ <皮膚領域：自由診療展開> 2024年11月より、創傷治療と瘢痕治療に特化した医療機関である、きずときずあとのクリニック®と連携し、自由診療でのリストカット痕の治療に用いる培養表皮の提供を開始した。



再生医療製品事業：軟骨領域（ジャック）

- ✓ 2025年3月期の売上は、382百万円（前期比19.1%増）。
- ✓ 令和6年度診療報酬改定により保険償還価格が引き上げられたことに加え、日本膝関節学会と併せたセミナー開催など、ジャックの有効性を訴求する営業活動を行った結果、売上が増加した。
- ✓ 2025年4月18日に開催された厚生労働省「薬事審議会 再生医療等製品・生物由来技術部会」において適応症に変形性膝関節症を追加する一部変更承認が了承された。変形性関節症の新たな治療として患者に「ジャック」をいち早く使用いただけるよう、2026/3月期中の保険収載を目指して、提供体制の構築を進める。

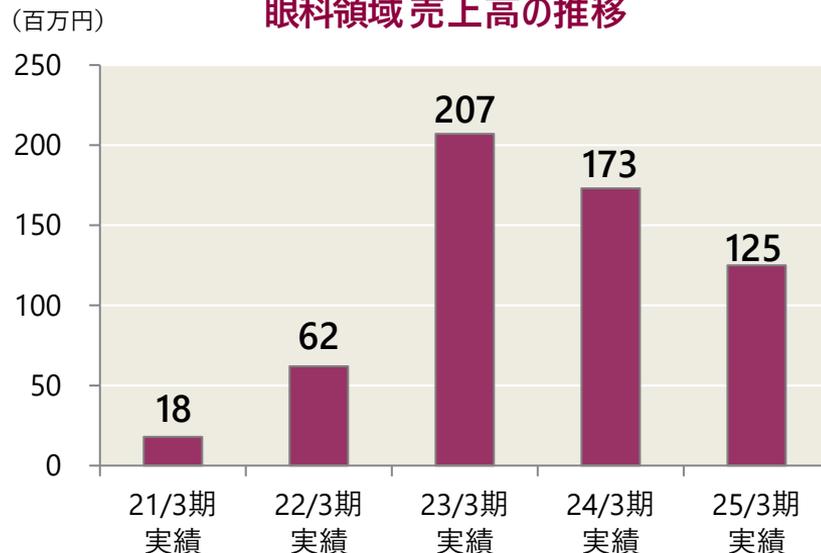


再生医療製品事業：角膜領域（ネピック・オキュラル）

- ✓ 2025年3月期の売上は、125百万円（前期比28.0%減）。
- ✓ 待機患者への移植が一巡して売上が鈍化しているが、片眼にオキュラルを移植した両眼性疾患の患者に対する対側眼への受注が入り始めた。また、角膜専門医への治療啓発や潜在患者の発掘を加速するため、販売を担う(株)ニデックの営業活動に加え、当社のリソースを積極投入する新たな施策を開始し、両社協力による候補施設の開拓や潜在患者の発掘が進捗している。



眼科領域 売上高の推移



再生医療受託事業

- ✓ 2025年3月期の売上は、713百万円（前期比17.5%減）。帝人関連の減収が響き、売上全体では減少した。なお、一般顧客からの受託（親会社（帝人）以外からの受託）においては順調に売上を計上した。
- ✓ <一般顧客からの受託> 顧客に対し、開発製造受託（CDMO）開発業務受託（CRO）に係るサービスを提供してきた。委託元のアクチュアライズ(株)では、再生医療等製品としての、国内第Ⅱ相臨床試験が開始され、被験者への投与は完了した。また、(株)VC Cell TherapyとiPS細胞による再生医療等製品の実用化に向けた資本業務提携を行い、受託を開始した。さらに、(株)メトセラが開発する機能的単心室症を対象とする再生医療等製品の治験製品製造に関する受託契約を締結した。iPS細胞や循環器領域といった新たな領域へ拡張させるとともに、委託元との関係を通じた製品価値向上と新しいCDMO事業の仕組みづくりに注力し、わが国の再生医療の発展に貢献する。
- ✓ <帝人関連> 当事業年度は、予定していたマイルストーンに遅れが生じたこと及び受託の減少により、帝人リジェネット(株)の立上げに伴うマイルストーン収入*及び受託収入のあった前事業年度と比べて収入が減少した。加えて、当事業年度に予定していたマイルストーンにも遅れが生じた。今後、帝人と協創を図り、両社の価値を高める施策を推進し、マイルストンの達成と受託収入の拡大を目指す。

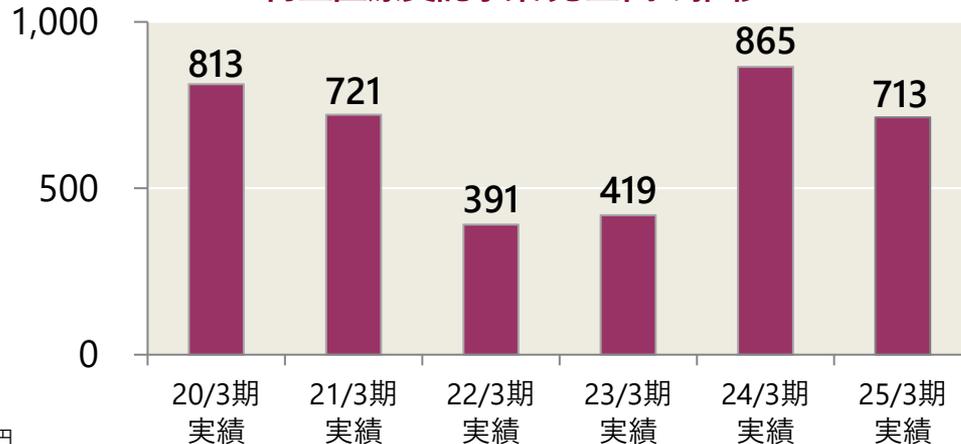


*帝人からのマイルストーン収入

前事業年度（2024年3月期）：170百万円、当事業年度（2025年3月期）：100百万円

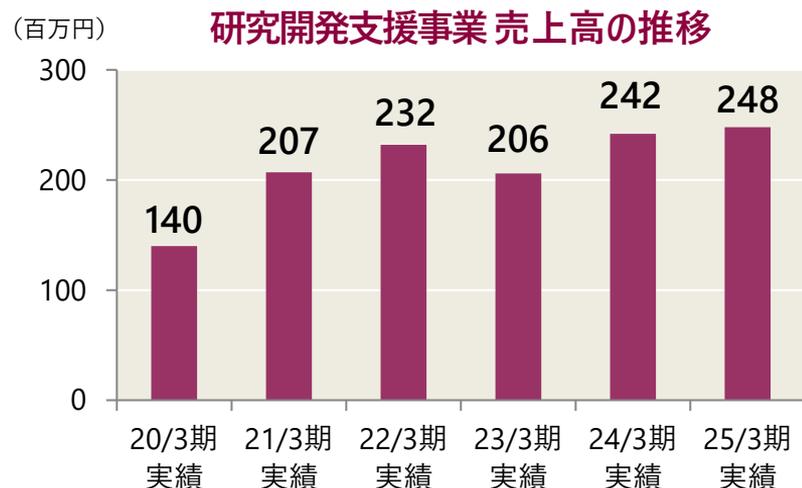
（百万円）

再生医療受託事業売上高の推移



研究開発支援事業：ラボサイト

- ✓ 2025年3月期の売上は、248百万円（前期比2.6%増）。
- ✓ 国内大口顧客における研究がひと段落し減収に響いたものの、動物実験代替製品「ラボサイト」を使用して行う皮膚感作性試験法であるEpiSensAのテストガイドライン収載を受け、国内外の新規顧客からの引き合いが増え、売上は微増となった。
- ✓ 国内においては、EpiSensAを用いた試験受託事業を開始した。帝人構造解析センターを外部試験受託機関として連携し、ニーズが拡大するEpiSensAの受け皿を拡大することでラボサイトの拡販を図る。
- ✓ 海外においては、インドのシベン・バイオテック社と代理店契約を締結し、販売促進活動を開始している。また、欧州においても複数社への販売を開始している。
- ✓ 2025年3月には、ヒトiPS細胞とオルガノイドの技術を用いた研究用腸管上皮モデルの開発権を取得した。2027年3月期1Qの上市を目指して開発を進め、現在の化粧品を主とする市場から創薬市場への新たな展開を進めるとともに、米国や欧州、アジアへの展開も順次進め、早期で数億円規模の売上高達成を目指す。



貸借対照表の概要

(単位：百万円) (百万円未満切捨て表示)		2024年3月期 2024年3月31日	2025年3月期 2025年3月31日	増減額	
流動資産	5,339	4,824	△514	現金及び預金の減少等	
固定・繰延資産	1,649	1,688	38	減価償却等	
資産合計	6,988	6,512	△475		
流動負債	873	637	△236	未払金の減少等	
固定負債	34	50	15		
負債合計	908	687	△220		
資本金	4,958	4,958	-		
資本準備金	2,788	2,788	-		
利益剰余金	△1,666	▲1,922	△255		
純資産	6,080	5,825	△255	当期純損益の計上	
負債・純資産合計	6,988	6,512	△475		

キャッシュフローの概要

(単位：百万円) (百万円未満切捨て表示)	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績
営業活動によるキャッシュ・フロー	274	▲ 148
投資活動によるキャッシュ・フロー	△242	▲ 232
財務活動によるキャッシュ・フロー	0	0
現金及び現金同等物の増減額 (△：減)	31	▲ 380
現金及び現金同等物の期首残高	2,034	2,066
現金及び現金同等物の期末残高	2,066	1,685

- ✓ 営業活動によるCF： 営業活動の結果使用した資金は148百万円（2024年3月期は274百万円の獲得）
主には、税引前当期純損失及び原価償却費
- ✓ 投資活動によるCF： 投資活動の結果使用した資金は232百万円（2024年3月期は242百万円の使用）
主には、投資有価証券の取得による支出
- ✓ 財務活動によるCF： 財務活動の結果使用した資金は0百万円（前期は0百万円の使用）
主には、自己株式の取得による支出
- ✓ 現金及び現金同等物の期末残高：
期首残高2,066百万円に対し、期末残高は1,685百万円となった。なお、貸借対照表中の現金及び預金（3,885百万円）との差額は、預入期間が3カ月を超える定期預金（2,200百万円）分に該当する

本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。

また、当社は、事業計画に関する業績目標その他の事項の実現・達成等に関しその蓋然性を如何なる意味においても保証するものではなく、その実現・達成等に関して一切責任を負うものではありません。

本開示資料に記載されている将来に係わる一切の記述内容（事業計画に関する業績目標も含まれますがそれに限られません。）は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、将来の経済環境の変化等を含む事業計画の前提条件に変動が生じた場合その他様々な要因の変化により、実際の事業の状態・業績等は影響を受けることが予想され、本開示資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング

〒443-0022 愛知県蒲郡市三谷北通6-209-1

TEL: 0533-66-2020 FAX: 0533-66-2019

Email: jtec-info@jpte.co.jp